

第8回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 会議録

開催日時	平成27年7月23日(木) 19:00～21:30
開催場所	宝塚市市役所3階 特別会議室
次 第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 議事録について 第4回協働のマニュアル策定部会議事録 第7回協働のまちづくり促進委員会議事録 第5回協働の仕組みづくり検討部会議事録 第6回協働の仕組みづくり検討部会議事録3 報告 (1) 協働のマニュアル策定部会(第5回及び第6回)の審議概要について (2) 協働の仕組みづくり検討部会(第5回及び第6回)の審議概要について4 議事 (1) 協働のマニュアル(案)について (2) 協働の仕組みづくり検討部会第1期まとめ(案)について5 宝塚市協働の指針職員研修会について6 宝塚市協働の指針市民説明会について7 閉会
出席委員	久委員長、足立委員、飯室委員、塩谷委員、亀山委員、河上委員、熊澤委員、古泉委員、古村委員、中山委員、檜垣委員、平山委員、横谷委員、渡邊委員、山本委員
開催形態	公開(傍聴人0)

1 開会

第8回宝塚市協働のまちづくり促進委員会の開会。

事務局から、本日の委員出席者数は15人、欠席者は4人であり、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者がいないことを報告した。

2 議事録について

事務局から議事録(案)を提示し、次回の会議までに委員が内容を確認することとなった。

3 報告

事務局から各部会の審議概要を報告した。

4 議事

(1) 協働のマニュアル(案)について

協働のマニュアル策定作業部会の部会員から、部会及び作業部会での審議経過並びに協働のマニュアル(案)の内容について説明が行われ、その後、以下のとおり審議がなされた。

ア 3点質問がある。まず、資料編の内容は、どのようなものを想定しているのか。

イ 協働の担い手、活動内容をまとめたデータなどを掲載したいと考えている。

ウ フィードバックは、何を指すのか。

エ フィードバックは、事業終了後の評価を次の活動の共有に反映させて、PDCAサイクルを回すためのフィードバックのことである。

オ 前文にマニュアルの目的が記載されているが、マニュアル策定部会が設置された理由など、より上位の目的を盛り込んでどうか。

カ 検討の当初に、「そもそも協働とは」といった内容を前文に盛り込んでいたが、協働の指針があることを前提としたマニュアルなので、今のような内容となった。

キ 協働の指針とマニュアルのつながりを意識しない人もいるので、より詳しい説明を加筆してもよいかもしれない。

ク 【会長意見】指針は大きなことが書かれているので、現実の活動に当てはめる際に留意すべき事項などを、マニュアルとしてそれぞれの段階で整理したものであると説明すれば、理解しやすいのではないか。

ケ 今後、まちづくり協議会が市から委託事業を受ける際のマニュアルは別に作る予定なのか。それとも、このマニュアルをベースにしてまちづくり協議会が委託事業を受けることになるのか。これからまちづくり協議会が市からの委託事業を受けて実際に事業を進めていくうえで市民がどう関わるのか、詳細について解説する記載が必要になるのではないかと思う。

コ 今の段階ではこの程度のマニュアルでよいと思うが、随時見直す必要があり、いずれは必要になってくることかもしれない。

サ 協働の事業をどのような視点で捉えるのかによって、記載する内容も変わってくるのだと思う。指定管理者制度でも、行政処分としての面を強く意識するのか、協働の面を強く意識するのかによって、基本協定や年次協定の文言も異なってくる。協働の事業とするのであれば、対等な関係を意識すべきである。

子ども館の指定管理では、子ども未来部と協議して基本協定や年次協定の文言を協働の事業に合うように見直した。

シ 他市で作られているポケット版のようなものを活用して、行政職員が日々の業務で協働を意識した動きができるようになればよいと思う。

ス マニュアル(案)では、市民の発意で協働が始まるようになっているが、行政職員の発意があってほしい。

セ 【会長意見】行政も業務として降りてきただけでなく、誰かの気付きから協働が始まっていることを意識してほしい。

ソ 行政が留意すべき点が記載されているので、行政職員の気付きに役立つマニュアルになっていると思う。特に行政として気を付けるべき点だと思うことは、協働には時間がかかるということだ。行政は予算も評価も単年度ごとに行われるので、職員はどうしても年度を意識してしまう。評価のあり方やシステムも協働に合ったものに見直していく必要があると思う。また、行政職員の気付きから意識改革につながる内容が盛り込まれていると思う。

タ 評価については、マニュアルに評価シートのサンプルのようなものがあればよいと思うがどうか。

チ 資料編に掲載することを検討していた。

(2) 協働の仕組みづくり検討部会第1期まとめ(案)について

協働の仕組みづくり検討作業部会の部会員から、部会及び作業部会での審議経過並びに第1期まとめ(案)の内容について説明が行われ、その後、以下のとおり審議がなされた。

ア 資料1と2の順番を逆にした方が理解しやすいと思うのだが、この順番にした意図は何か。

イ 順番に特別な意図はない。資料1はこれまでの部会での発言からピックアップしたものであるが、資料2は作業部会のみで議論したものであるので、まとめに掲載するかどうかも含めて検討する必要があったので、このような順番となった。

ウ 【会長意見】意図するところによって、順番が変わってくるのだと思う。内容の重要度でいえば、今の順番でよいように思う。

エ このまとめの位置付けは、部会で議論した内容をとりまとめ、資料として作業部会のみで議論した内容も掲載していると理解しているが、どこまで意見を述べてよいのか。

オ 【会長意見】今回と次回で全体会に諮り、促進委員会としてのまとめとして位置付けることになるので、まだ議論が足りていない部分があれば、それはそれとして意見を述べてください。

カ 議論しておかなければならない部分としては、仕組みにどうやって命を吹き込むか、運用していくかというところだと思う。二院制の仕組みがあっても、どちらかが上位に立ってしまったら、対等の関係を築くことはできない。また、市の組織として地域担当制については触れられているが、協働を推進する組織体制をどうするのかも議論しておかなければならないと思う。今は市民協働推進課が所管することになっているが、協働という視点で市全体の施策の調整を図るには、企画部門で所管する必要があるのではないか。市民協働推進課に地域担当は配置されているが、同課が本部としての機能までは果たせていない。

キ まとめとして、まちづくり協議会の現状把握はとてもできていると思うが、仕組みづくりまでには至っていない。地域予算など、今後どのような仕組みづくりをしていくのか、本格的な議論をしていかなければならない。

ク まちづくり協議会に入っているという意識をどうやって住民に持ってもらうかを

考える必要がある。一部の人に仕事や役職が集中している。

ケ 【会長意見】 まとめの中心の1つにした誰もが参加できる仕組みを整えれば、負担も分散されるのだと思う。

コ 今期にまちづくり協議会について議論した内容を整理したものがこのまとめとなるが、是非とも次期に引き継いでほしい事項は、ガイドラインを定めて、評価することだ。自己評価や第三者評価も議論に上がっていたが、各まちづくり協議会がどのようなものを目指していくのがよいのかを共有して、評価できるものを作って欲しい。まとめとしては、本日の議論も加えて次期に引き継ぐ形でよいと思う。

サ まとめを作業部会で作成した感想としては、こういう組織の運営の仕方をすれば、まちづくり協議会だけでなく、自治会やNPOでも活動がうまくいくのではないかと感じた。まちづくり協議会についてのまとめという形になっているが、市民一人ひとりがいろいろな活動をしていく中で念頭に置いておけばうまくいくガイドラインになったのではないかと思う。

シ まちづくり協議会の基礎として自治会を据えているので、自治会のことを理解して議論する必要がある。また、次期には先進地に出掛けていくことも必要だと思う。

ス マニュアルを若手職員と一緒に作れたらいいと思う。

セ 【会長意見】 河内長野市では公募の職員と公募の市民でマニュアルを作成した。

ソ 協働に対する意識が低い職員が研修でも見受けられる。マニュアルの作成に参加してもらおうようなことを通じて、少しでも協働の意識が高まればよいと思う。

5 宝塚市協働の指針職員研修会について

ワークショップ形式の研修を8月27日、31日、9月7日に実施することとなった。また、後期の研修は本庁職員以外の職員を対象に実施するよう人事課と調整している旨を報告した。

6 宝塚市協働の指針市民説明会について

第1回の市民説明会のアンケート結果を報告した。また、きずなづくり推進事業補助金交付団体に対して市民説明会を実施する予定であることを報告した。

7 閉会